

古代の先進地 出雲

田和山サポートクラブ副会長 堀 暁

私が考古学科の学生だった頃(もう半世紀前)には弥生時代文化は北九州を中心とする銅矛・銅剣文化と近畿を中心とする銅鐸文化に分かれ、出雲は何もない後進地域とされていました。今でも出雲の考古学者にはこのような先入観に囚われ、先進的なものは九州か近畿から伝えられたに違いないと決めつける人が多いのです。

そんな遅れた(はずの)

出雲が古事記や日本書紀の神話伝承の中心地だったのはなぜでしょう。

北九州銅剣・銅矛文化

空白の出雲

近畿銅鐸文化

神話を全く荒唐無稽な作り話だとする信じる戦後世代の研究者も、なぜ神話の中心が出雲なのか？北九州や近畿でないのかについては口を噤んでだんまりです。

しかし火のないところに煙は立たずで、出雲が極めて重要な地域だったことが考古学の成果として次々に現れ始めました。田和山遺跡、荒神谷遺跡、加茂岩倉遺跡、西谷古墳群、そして出雲大社の巨大柱などです。荒神谷や岩倉で全国でそれまで出土していた数を上回

北九州

出雲銅剣・銅鐸文化

近畿

る銅剣や銅鐸が出土、一躍出雲こそが弥生青銅器文化の中心に躍り出たのです。

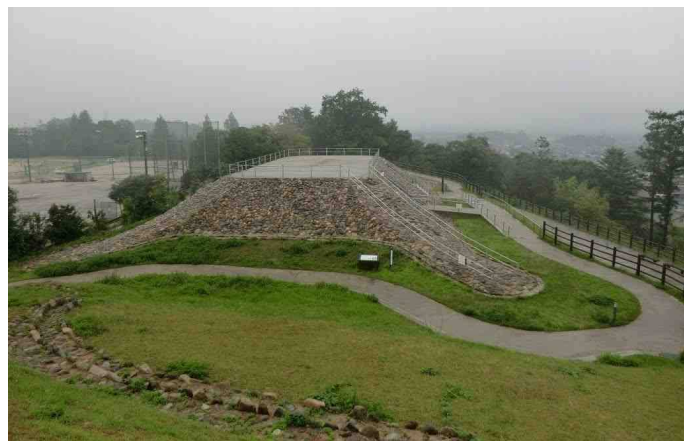
田和山遺跡が卑弥呼の宮殿の400年前の先駆であること、日本最古の書道資料が出土したことは、「田和山の本質」や「田和山出土の石硯」すでに述べました。田和山遺跡が廃絶したころ、荒神谷や岩倉で祭祀青銅器の埋納が行われています。地下に埋めたのはもちろん捨てたのではなく、神様にお返ししたためです。

そして新しいお祭り、首長の巨大墓建設という国の祭りが始まります。それが西谷古墳群などのいわゆる「四隅突出弥生墳丘墓」です。長くて舌の纏れそうな名前で、単純に弥生古墳と呼べばいいのと思えます。古墳を大和朝廷と結びつけたいという願望が込められているのです。

西谷古墳の墓の構造は木槨(木で作った部屋)に棺を収めるという中国漢時代の様式です。その頃の北



荒神谷遺跡の銅剣出土状況



西谷弥生古墳群

九州では昔ながらの甕棺墓、近畿では小形の方形周溝墓がせいぜいで、出雲には及びもつきません。

田和山の石硯についても、いや、これは威信財(ステータスシンボル)で、実際には使われていないという説もありますが、使われもしない用途不明品は単なる石屑でしかありません。言ってることがもともと矛盾しているのです。

出雲が日本一の先進地域だったのは弥生時代を通じてで、その後は大国主命の国譲りの伝説にみられるように、大和の勢力に飲み込まれたようです。その大和さえ出雲の重要性を消し去ることは不可能だったのでしょうか。北九州の倭国の伝承が、日本武尊の熊襲征伐、筑紫の君の乱、隼人の乱の制圧の結果、まったく雲散霧消したのとは対照的といえるのではないのでしょうか？